

GSIA「Global Sustainable Investment Review 2020」を公表 ～世界の責任投資市場に関するレポート(2020年版)～

Research Clip
2021年8月

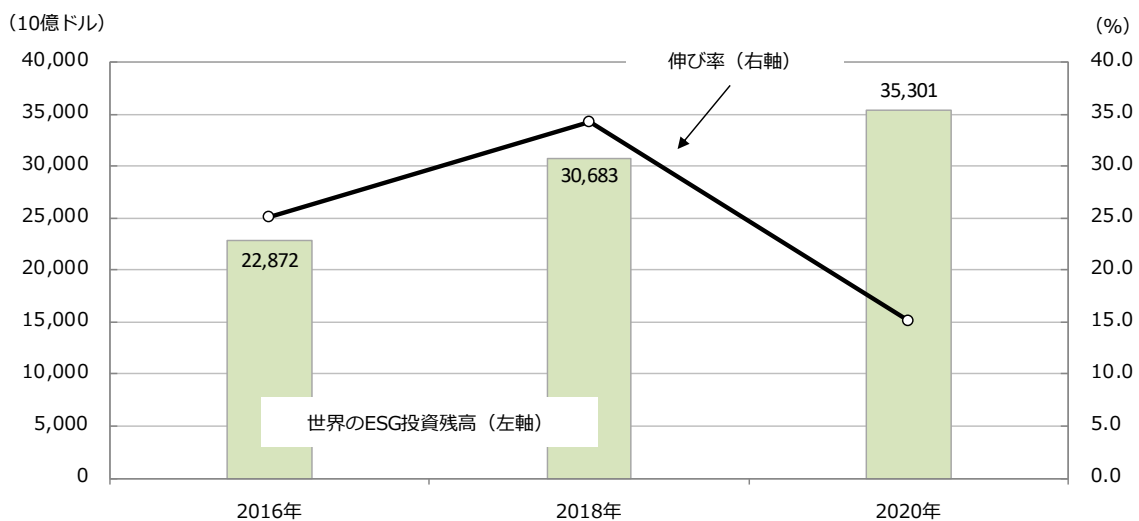
社会システム研究所
石田 竜大
岡芹 弘幸
寺山 恵

■ The Global Sustainable Investment Alliance (以下、GSIA)は、世界の2020年におけるESG投資の動向を紹介するレポート「Global Sustainable Investment Review 2020」を公表した。GSIAはESG投資を推進する世界7団体の協働組織¹であり、その7団体からのデータをもとに、世界のESG投資の現状として同レポートを公表している。GSIAは2012年から隔年でレポートを作成しているが、今回は、Eurosifが発行する「European SRI Study 2020」の発行が遅れているためか、同レポートもこれまでに比べて遅いタイミングでの発表であった。

1. ESG投資の残高推移

2020年の世界のESG投資残高は2018年比15.1%増の35.3兆ドルになった(図表1)。米国が同42.4%増と大きく伸ばしたことを中心に引き続き増加トレンドを辿ったが、後述する理由により欧州のESG投資残高が同14.6%減と2桁の減少になったことから、2016年・2018年に比べて伸び率が鈍化している。

図表1 世界のESG投資残高の推移



(出所) GSIA「Global Sustainable Investment Review 2020」より日興リサーチセンター作成

¹ Eurosif、RIAA、RIA Canada、UKSIF、US SIF、VBDO、JSIFの7団体 <http://www.gsi-alliance.org/alliance-members/>

2020年の国・地域別のESG投資残高は、米国が2018年比42.4%増の17.0兆ドルとなり、欧州を抜くトップの水準になった(図表2)。米国ではサステナブルファイナンスへの関心の高まりが続いており、ミューチュアルファンドなどでESGを投資戦略に組み込むケースも増加している。

欧州は2018年比14.6%減の12.0兆ドルであった。同レポートでは、欧州のESG投資残高が減少した理由として、EUサステナブルファイナンス・アクション・プランのもとで行われるサステナビリティ開示の新規則(Sustainable Finance Disclosure Regulation)の施行を見据えた動きを挙げている。つまり、ESG投資をやめる動きがあった訳ではなく、新規則に沿うかたちでESG投資を集計した結果、ESG投資とはみなされない投資戦略があったということだと考えられる。

日本は2018年比31.8%増の2.8兆ドルになった。日本では債券や不動産、プライベート・エクイティにもESGを考慮する割合が高まっている。

カナダは2018年比42.6%増の2.4兆ドルとなった。カナダでは個人向けのミューチュアルファンドやETFでもサステナブルファイナンスに関連するものが選好される傾向が強まっている。

豪州・ニュージーランドは2018年比23.4%増の0.9兆ドルであった。豪州の数値については、市場規模の定義が変更されたことやサステナブルファイナンスについての基準が修正されるなど集計上の変更が影響している。

図表2 国・地域別のESG投資残高推移

単位：10億ドル

国・地域	2016年	2018年	2020年
ESG投資残高合計	22,872	30,683	35,301
伸び率	25.1%	34.2%	15.1%
欧州	12,040	14,075	12,017
伸び率	11.7%	16.9%	-14.6%
米国	8,723	11,995	17,081
伸び率	32.7%	37.5%	42.4%
日本	474	2,180	2,874
伸び率	67.7倍	4.6倍	31.8%
カナダ	1,086	1,699	2,423
伸び率	49.0%	56.4%	42.6%
豪州・ニュージーランド	516	734	906
伸び率	3.5倍	42.2%	23.4%

(出所)GSIA「Global Sustainable Investment Review 2020」より日興リサーチセンター作成

2. ESG 投資の手法別動向

GSIA は、図表 3 のように ESG 投資を大きく 7 つの投資手法に分類して報告を行っている。

図表 3 GSIA の ESG 投資手法の分類とその定義

投資手法	定義
ESGインテグレーション	投資判断を行うための財務分析にESGファクターを体系的に明確なかたちで組込んでいる
ネガティブ・スクリーニング	投資に不適当と考える特定のセクターや企業、国などを投資対象から除外する
エンゲージメント/株主行動	株主提案や議決権行使、エンゲージメントを通じて企業行動に影響を与える行動をする
国際規範スクリーニング	国際的な規範に違反していないかどうかをスクリーニングする
サステナブルテーマ投資	サステナビリティに貢献するテーマや資産への投資
ポジティブ・スクリーニング	セクター内で相対的にESGパフォーマンスに優れる企業に投資を行う
インパクト投資/コミュニティ投資	インパクト投資：環境・社会にポジティブな効果が期待できる対象への投資 コミュニティ投資：十分なサービスを受けていない個人やコミュニティ、環境・社会で明確な目的を持つ事業への資本提供

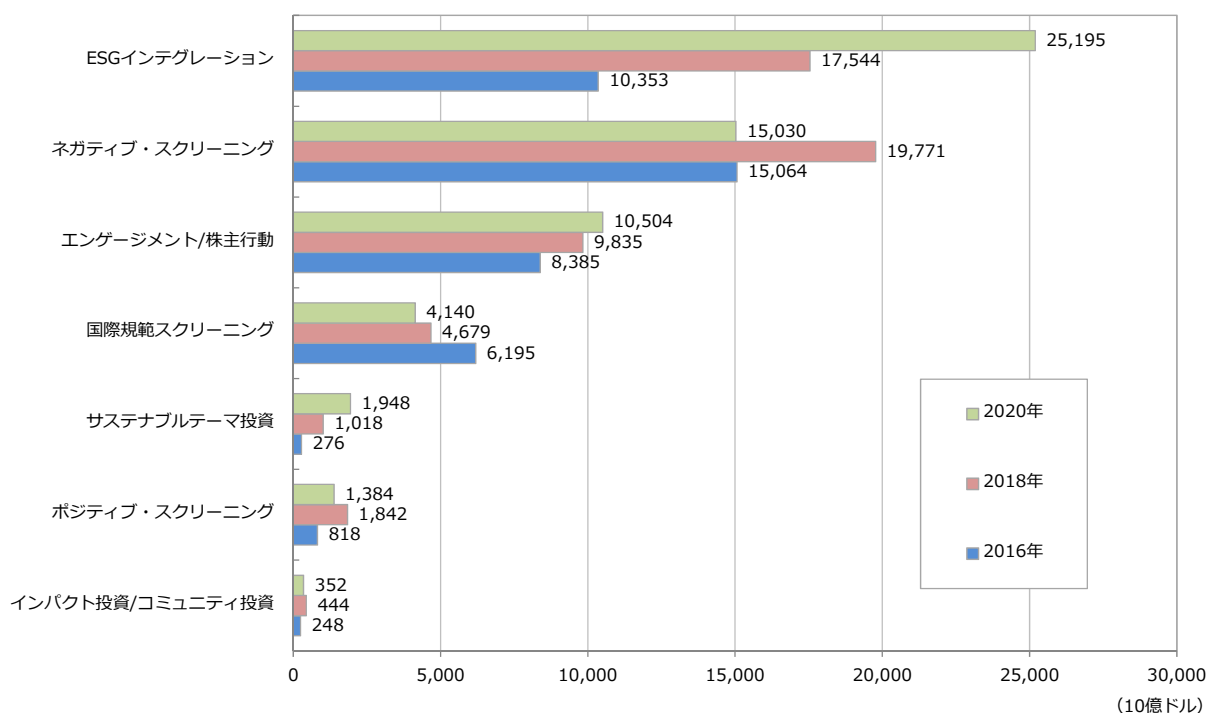
(出所)GSIA「Global Sustainable Investment Review 2020」より日興リサーチセンター作成

2020年までの世界の ESG 投資の手法別資産残高は図表 4 の通りである。主な ESG 投資手法の動向をみると、ESG インテグレーションが 2018 年比 43.6%増の 25.1 兆ドルとなり、ネガティブ・スクリーニングを抜いてトップになった。これは、米国が同 69.5%増の 16.0 兆ドルになった影響が大きく、米国では投資アセットに ESG インテグレーションを行っているという回答した割合が 2018 年に比べて 15 ポイント程度上昇している。

ネガティブ・スクリーニングは、欧州と米国の落ち込みを主因に 2018 年比 24.0%減の 15.0 兆ドルとなり、2018 年比で減少したことに加え、ポジションも 2 位に落ちている。2020 年の欧州のネガティブ・スクリーニングは、同 15.0%減の 9.2 兆ドルであった。欧州では 2018 年の ESG 投資手法の割合をもとに 2020 年の数値を算出しているため、2020 年のネガティブ・スクリーニングの残高は欧州の ESG 投資残高全体の減少を反映している。一方、米国では、投資手法別の ESG 投資残高調査においてネガティブ・スクリーニングを導入していると回答した割合が 2018 年の 68%から 2020 年は 20%に減少したことから、ネガティブ・スクリーニングの残高が同 57.0%減になった。

エンゲージメント/株主行動に関しては、2018 年比 6.8%増の 10.5 兆ドルと漸増傾向にある。日本が同 35.7%増の 1.7 兆ドル、カナダが同 73.3%増の 2.0 兆ドルになったことなどが全体の水準を押し上げている。

図表4 ESG投資の手法別資産残高



(出所)GSIA「Global Sustainable Investment Review 2020」より日興リサーチセンター作成

上記の投資手法別の動向をみるうえでは留意点が3点ある。1点目は、同一の運用主体が複数のテーマを採用するケースがあるため、各手法の金額を合計するとESG投資残高の全体を上回ること。2点目は、欧州は2020年の投資手法別の金額データを開示していないことから、GSIAは2020年の欧州のESG投資残高に2018年の欧州のESG投資手法の割合を当てはめるかたちで、2020年の欧州の投資手法別残高を算出していること。3点目は、米国の投資手法別の数値は一部の回答者の内容をもとに全体を推計しているが、回答者のESGアセットが米国のESG投資残高に占める割合は2018年が27%、2020年が21%と高くないことである。このように、2020年の投資手法別の資産残高をみるときは、やや正確性に課題がある点に留意しておく必要がある。

3. 主要国・地域のESG投資手法の特徴

2020年の欧州、米国、日本のESG投資残高に占める投資手法別の割合は図表5の通りであり、国・地域別のESG投資残高を分母、各投資手法を取り入れている投資残高を分子にして算出している。前述したように、2020年の欧州の投資手法別の割合は2018年の構成と同じである。欧州ではネガティブ・スクリーニングが76.9%と最も高く、エンゲージメント/株主行動(39.5%)、ESGインテグレーション(34.5%)と続き、国際規範スクリーニングも25.6%を占めている。

米国はESGインテグレーションが94.0%であり、ほとんどのESG投資で適用されている。一方、ネガティブ・スクリーニング(19.9%)とエンゲージメント/株主行動(11.6%)は欧州や日本と比べて

相対的に低い水準にある。

日本は ESG インテグレーションが 66.1%でトップであるが、エンゲージメント/株主行動も 60.4%と同程度の投資手法になっている。また、ネガティブ・スクリーニングも 43.6%で活用されている。

図表 5 2020 年の主要国・地域の ESG 投資手法の特徴

	欧州	米国	日本
ESGインテグレーション	34.5%	94.0%	66.1%
ネガティブ・スクリーニング	76.9%	19.9%	43.6%
エンゲージメント/株主行動	39.5%	11.6%	60.4%
国際規範スクリーニング	25.6%	-	9.1%
サステナブルテーマ投資	1.2%	9.9%	2.6%
ポジティブ・スクリーニング	4.8%	3.9%	4.7%
インパクト投資/コミュニティ投資	0.9%	1.2%	0.03%

(注 1) 各国・地域の ESG 投資残高を分母、手法別の投資残高を分子として算出

(注 2) 米国は国際規範スクリーニングという形式では報告を行っていない

(出所) GSIA「Global Sustainable Investment Review 2020」より日興リサーチセンター作成

同レポートは、下記 URL よりダウンロードできる。

(<http://www.gsi-alliance.org/wp-content/uploads/2021/07/GSIR-2020.pdf>)